

【 第8回 男子ユース世界選手権 】

2019年8月6日～8月18日 開催地:北マケドニア

試合結果報告 8月8日 (木)

JAPAN	vs	バーレーン
14	1st	11
13	2nd	13
	ex	
	ex	
27	TOTAL	24

個人得点

No.	NAME	1st	2nd	ex	ex	TOTAL
4	可児 大輝	2	1			3
6	窪田 礼央	0	0			0
7	安平 光佑	2	2			4
8	清水 裕翔	0	0			0
9	吉田 守一	3	1			4
11	藤川 翔大	3	2			5
12	矢村 裕斗	0	0			0
14	山口 直輝	0	1			1
16	高木 アレクサンダー	0	0			0
17	朝野 翔一郎	0	2			2
18	梶山 瑞生	0	0			0
20	石田 知輝	0	0			0
22	白石 竜聖	0	0			0
23	治田 大成	0	0			0
24	榎本 悠雅	0	3			3
25	蔦谷 大雅	4	1			5
TOTAL		14	13	0	0	27

戦況

蔦谷の先制ゴールでスタートしたバーレーン戦。開始6分3-3と互角の展開から蔦谷の強打で勝ち越した日本は、その後吉田の速攻、藤川のカットインやミドル、安平から可児へのパスプレーなどで先行を続けた。16分、蔦谷の7mTで9-6とすると、相手退場の隙に連取。吉田へのポストパスプレー、自らのカットインと、いずれも安平の鮮やかな攻め技が日本に主導権をもたらせた。

高い位置でフットワークよく動き、容易にシュートまで持ち込ませないDFの集中力も光った。このあと吉田のポストや蔦谷のステップ、可児のサイドなどで、25分までに14-9と優位をキープする。しかし、バーレーンのタイムアウト後に2点を奪われてしまう。

前半残り5分あたりからトップを高く上げた相手DFの前に得点ペースが鈍り、終了間際には退場もあり、後半出だしの攻防に不安がのぞいた。

後半開始早々にバーレーンに連打を許し、さらに7mT+退場でピンチが広がる。それでも、この7mTをバーレーンが外すと、左腕・榎本がサイドを決め、前半終盤から10分間沈黙していた重苦しいムードを断ち切る。

ここからバーレーンに偏るジャッジで7mTや退場が相次ぐ中、藤川のカットイン、蔦谷のループ、安平の速攻で貴重な得点を積み上げる。2点差内の息詰まる攻防が続いたあと、後半25分23-21から相手退場のチャンスに吉田のポスト、GK高木のファインセーブから山口の速攻で25-21とする。

バーレーンもミドル、サイドで必死に粘るが、28分30秒榎本のカットインで勝負あり。最後は、捨て身のプレスDFを仕掛ける相手の間隙を縫って藤川が27点目のゴールを決めて試合終了。

昨年9月のアジアユースで決勝を含む2試合に敗れていたバーレーンに雪辱を果たし、価値ある1勝をものにした。

報告記入者 :

吉田耕平